

片瀬のぞみだより(6月号)

日本基督教団片瀬教会付属

片瀬のぞみ幼稚園

家庭通信2016. No.3

月主題聖句

『神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めてよかった』

創世記1章31節

片瀬教会牧師 柴 適

新緑の美しい季節の到来は、私達に自然の恵みに目を向けさせ、その美しさに心が和みます。幼稚園の園庭にも、ベコニアのほのかな香りと色彩豊かな華やかさが、園児たちの心に映し出され、一人一人の笑顔と歓喜へと導いているように感じます。畑には、トマト、キュウリ、ナス、南瓜などが黄色い花を咲かせ、収穫に向かってぐんぐん成長しています。まるで、園児たちの成長を後押ししているようです。自然の恵みとそのたくましい生命に喜び感謝したいものです。今月の聖書は、旧約聖書の創世記1章31節のみ言葉で、旧・新約聖書の最初にある創造物語の一節です。創世記は、紀元前980年頃、今からおよそ3000年前の書物で、一人の著者、あるいは大勢の人達によって著作されたようです。創世記1章1節には『初めに、神は天地を創造された』とあり、聖書の世界では、宇宙、天地、万物(被造物)は、全てが神様の創造の業であると

記されています。私達、人間は、全ての創造物の最後に創造されました。創世記1章26節に『神は言われた。我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして、海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地に這うものすべてを支配させよう』とあります。ここでの『支配させる』の意味は、『管理させよう、守ろう』と置き換えることが出来る言葉です。そして、私達の生命は、2章7節の『主なる神は、土(アダマ)の塵で、人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった』との言葉から、神の息によって命が与えられ、そして、22節では『そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた』とあります。私達、人間が誕生したのです。私達は、良き支配者でなく、良き管理人として創造されたのです。それは、神様の創造の全てのものに目を向けるということです。今月の『月主題』は、『関心・心にとめて』あるいは『感じて』です。21日に、お父様とお子様(何人かのお母様も参加されました)との『磯遊び』が晴天に恵まれて、稲村ヶ崎から江の島に変更して行われました。私も参加させて頂きました。無風で遠浅の穏やかな波が寄せる磯での本当に楽しい磯遊びでした。お父様がどなたも、とても穏やかに笑顔を絶やさず、お子様達と一緒にヤドカリ、蟹、小魚、ヒラメかカレイ?、ハゼなどを獲っていられました。時にはお子様よりお父様の方が夢中になったりして、和やかに楽しんでいられました。お父様が、お子様に海の生き物や海藻などを説明している姿に、一生懸命にお子様を向き、大切にされている愛情の深さ、高さ、広さに感動しました。獲ったものを住み慣れた海に帰そうと、優しくお子様に声を掛けて放されたお父様もいられました。

こんなこともありました。あるお父様が『そっちは深いから気をつけてよ、危ないよ』と言われた時、お子様が『なんで深いの?』と聞きました。するとお父様が『なんでかねー』と考えさせる答えをされていました。お父様が答えを出すのではなく、お子様が、今は、理解出来なくても成長するにつれて、どんなことにも関心を寄せ、自分の言葉で発言し、解決し、答を出していくこと、幼い時から、無限の能力と想像力を養う時を与えて行くことの大切さを教えて頂きました。駄目と制止して、お子様の成長を妨げるのではなく、お子様が、何事にも関心を持ち、心と目を向けて成長して行くことが出来るように手助けして行くことが、私達の役目であり、大切なお子様の子育てではないでしょうか。この事を神様は、極めてよかったと言われたのです。神様の存在と創造の業に、正しく心を向けて行く日々のお子様の成長が楽しみです。教師の皆様は、笑顔で絶やさずテキパキとした指導と適切なアドバイスが、とても印象的で心温かくなり感謝でした。1時間ほどの時間でしたが、お子様とお父様の微笑ましい姿に心洗われる磯遊びでした。